

第1部 結果の解説

Part1 Summary of the Results

備 考

1. 本文及び図表中の数値は、表章単位未満で四捨五入している。なお、四捨五入は各々が表章単位未満を含んだ数値で行っているため、表中の値を四捨五入した計算値と本文中の値が一致しない場合がある。また、本文及び図表中の総数、割合及び増減率などについても、表中の値による計算値と本文及び図表中の値が一致しない場合がある。
2. 摘要表中の「－」は、該当数字がないもの、「0.0」、「0.00」は単位未満の数を示す。
3. 特に注記のない限り、全数集計結果を用いている。
4. 割合については、特に注記のない限り、「不詳」を除いて算出している。また、過去の割合も同様の方式で再計算している。

Note

1. The figures are rounded to the unit.
2. The mark “－” denotes zero or figures not applicable. Entries of 「0.0」, 「0.00」 denote below unit.
3. The figures are based on the result of total unless otherwise noted.
4. Ratios are calculated without “unknown”.

第1章 全国の人口

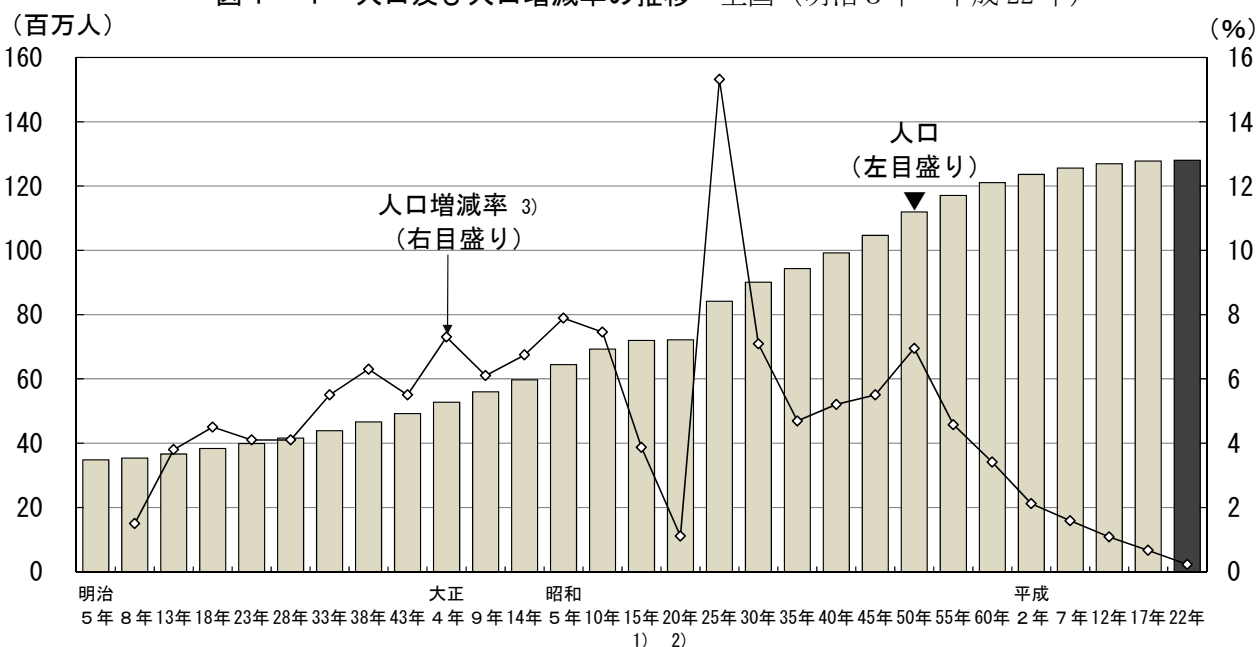
1-1 我が国人口の推移

我が国の人口は1億2805万7千人、平成17年から横ばいで推移

平成22年（2010年）10月1日現在の我が国の総人口は1億2805万7352人となっている。第1回の国勢調査が行われた大正9年と比べると、この90年間に我が国の人口は2.3倍となっている。この間の人口の推移を増減率でみると、大正9年から昭和10年には6.7～7.9%であったが、その後の10年間は戦争による死亡や軍人・軍属等の海外流出とそれに伴う出生率の低下によって大幅に低下した。昭和20年以降の推移をみると、20年～25年には海外からの引揚げ、復員による帰国、第1次ベビーブームⁱによる出生率の上昇によって15.3%と大幅に上昇したが、その後は出生率が次第に低下し、35年から45年には5%前後となった。昭和45年～50年の人口増減率は、第1次ベビーブーム期に生まれた女性が多く出産したことにより（第2次ベビーブーム）7.0%と上昇したが、これ以降は、出生率が低下を続けているため、人口増減率も低下を続け、平成17年～22年には横ばい（平成17年から0.2%増、年平均0.05%増）と調査開始以来最低の人口増減率となっている。

（図1-1、表1-1）

図1-1 人口及び人口増減率の推移—全国（明治5年～平成22年）



資料：大正4年以前は内閣統計局「明治5年以降我国の人口」、大正9年～平成22年は国勢調査又は人口調査結果による。

1) 国勢調査による人口73114千人から、内地外の軍人、軍属等の推計数1181千人を差し引いた補正人口。

2) 昭和20年人口調査による人口71998千人に、軍人及び外国人の推計数149千人を加えた補正人口。沖縄県を除く。

3) 昭和20年及び25年の人口増減率は沖縄県を除いて算出。

ⁱ ベビーブームとは、出生が一時的に急増することをいう。日本では、第2次世界大戦後、2回のベビーブームがあった。第1次ベビーブームは昭和22年から24年まで、第2次ベビーブームは46年から49年までである。

表1-1 人口、人口増減及び人口密度の推移—全国（明治5年～平成22年）

年次	人口 ¹⁾ (千人)	5年間の人口増減		年平均 人口増減率 (%)	人口密度 (人/km ²)	大正9年を 100とした 指数
		実数 (千人)	率 (%)			
明治 5年 (1872)	34,806	-	-	-	91	62
8年 (1875)	35,316	4) 510	4) 1.5	0.49	93	63
13年 (1880)	36,649	1,333	3.8	0.74	96	65
18年 (1885)	38,313	1,664	4.5	0.89	100	68
23年 (1890)	39,902	1,589	4.1	0.82	105	71
28年 (1895)	41,557	1,655	4.1	0.82	109	74
33年 (1900)	43,847	2,290	5.5	1.08	115	78
38年 (1905)	46,620	2,773	6.3	1.23	122	83
43年 (1910)	49,184	2,564	5.5	1.08	129	88
大正 4年 (1915)	52,752	3,568	7.3	1.41	138	94
9年 (1920)	55,963	3,211	6.1	1.19	147	100
14年 (1925)	59,737	3,774	6.7	1.31	156	107
昭和 5年 (1930)	64,450	4,713	7.9	1.53	169	115
10年 (1935)	69,254	4,804	7.5	1.45	181	124
15年 (1940) ²⁾	71,933	2,679	3.9	0.76	188	129
20年 (1945) ³⁾	72,147	5) 780	5) 1.1	5) 0.22	196	129
25年 (1950)	84,115	5) 11,053	5) 15.3	5) 2.89	226	150
30年 (1955)	90,077	5,962	7.1	1.38	242	161
35年 (1960)	94,302	4,225	4.7	0.92	253	169
40年 (1965)	99,209	4,908	5.2	1.02	267	177
45年 (1970)	104,665	5,456	5.5	1.08	281	187
50年 (1975)	111,940	7,274	7.0	1.35	300	200
55年 (1980)	117,060	5,121	4.6	0.90	314	209
60年 (1985)	121,049	3,989	3.4	0.67	325	216
平成 2年 (1990)	123,611	2,562	2.1	0.42	332	221
7年 (1995)	125,570	1,959	1.6	0.31	337	224
12年 (2000)	126,926	1,356	1.1	0.21	340	227
17年 (2005)	127,768	842	0.7	0.13	343	228
22年 (2010)	128,057	289	0.2	0.05	343	229

資料：大正4年以前は内閣統計局「明治5年以降我国の人口」、大正9年～平成17年は国勢調査又は人口調査結果による。

- 1) 大正4年以前は各年1月1日現在の推計人口（内閣統計局）による。
大正9年以降は10月1日現在、ただし、昭和20年は11月1日現在。
- 2) 国勢調査による人口73114千人から、内地外の軍人、軍属等の推計数1181千人を差し引いた補正人口。
- 3) 昭和20年人口調査による人口71998千人に、軍人及び外国人の推計数149千人を加えた補正人口。沖縄県を除く。
- 4) 3年間の人口増加。
- 5) 沖縄県を除いて算出。

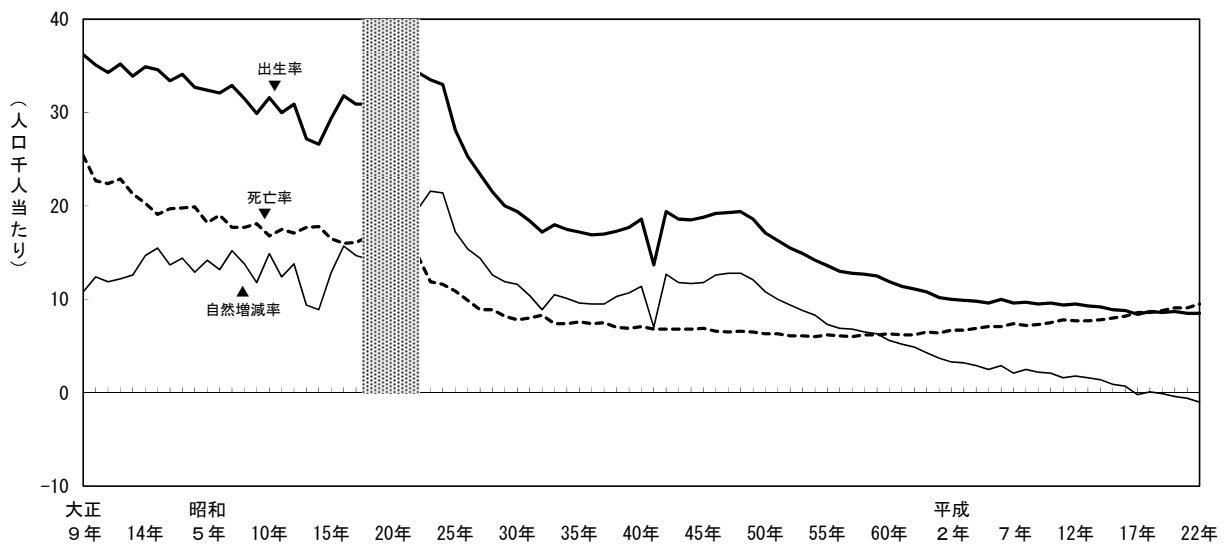
死亡率を下回る出生率

厚生労働省「人口動態統計」による出生率と死亡率の推移をみると、大正9年には人口千人当たり25.4であった死亡率はその後大幅に低下し、昭和41年以降6台で推移していたが、高齢化の進展に伴い、60年代から徐々に上昇し、平成22年には9.5となっている。

一方、出生率は昭和22年から24年までは第1次ベビーブームにより人口千人当たり33～34と昭和初期の水準まで上昇したが、20年代後半に大幅に低下した。昭和30年代から40年代前半にかけては、丙午（ひのえうま）ⁱⁱの年である41年には13.7に低下したものの、おおむね17～18で推移した。昭和40年代後半には第2次ベビーブームを迎え、19台に上昇したものの、その後は再び低下の傾向を示している。

その結果、平成17年には出生率は8.4と過去最低になり、明治32年の統計開始以来初めて死亡率を下回った。平成18年は出生率が死亡率を上回ったものの、19年以降は再び出生率が死亡率を下回っており、22年の出生率は8.5となっている。（図1-2、表1-2）

図1-2 出生率、死亡率及び自然増減率の推移—全国（大正9年～平成22年）



資料：厚生労働省「人口動態統計」による。

(注) 昭和19年～21年は資料不備のため省略した。昭和22年～47年は沖縄県を含まない。

大正9年～昭和41年においては総人口（日本に在住する外国人を含む。）を分母に用いている。

ⁱⁱ トピックス（15ページ）参照

表1-2 出生率、死亡率及び自然増減率の推移—全国（大正9年～平成22年）

年次	出生率 (人口千人 当たり)	死亡率 (人口千人 当たり)	自然増減率 (人口千人 当たり)	年次	出生率 (人口千人 当たり)	死亡率 (人口千人 当たり)	自然増減率 (人口千人 当たり)
大正 9年 (1920)	36.2	25.4	10.8	40年 (1965)	18.6	7.1	11.4
10年 (1921)	35.1	22.7	12.4	41年 (1966)	13.7	6.8	7.0
11年 (1922)	34.3	22.4	11.9	42年 (1967)	19.4	6.8	12.7
12年 (1923)	35.2	22.9	12.2	43年 (1968)	18.6	6.8	11.8
13年 (1924)	33.9	21.3	12.6	44年 (1969)	18.5	6.8	11.7
14年 (1925)	34.9	20.3	14.7	45年 (1970)	18.8	6.9	11.8
昭和 元年 (1926)	34.6	19.1	15.5	46年 (1971)	19.2	6.6	12.6
2年 (1927)	33.4	19.7	13.7	47年 (1972)	19.3	6.5	12.8
3年 (1928)	34.1	19.8	14.4	48年 (1973)	19.4	6.6	12.8
4年 (1929)	32.7	19.9	12.9	49年 (1974)	18.6	6.5	12.1
5年 (1930)	32.4	18.2	14.2	50年 (1975)	17.1	6.3	10.8
6年 (1931)	32.1	19.0	13.2	51年 (1976)	16.3	6.3	10.0
7年 (1932)	32.9	17.7	15.2	52年 (1977)	15.5	6.1	9.4
8年 (1933)	31.5	17.7	13.8	53年 (1978)	14.9	6.1	8.8
9年 (1934)	29.9	18.1	11.8	54年 (1979)	14.2	6.0	8.3
10年 (1935)	31.6	16.8	14.9	55年 (1980)	13.6	6.2	7.3
11年 (1936)	30.0	17.5	12.4	56年 (1981)	13.0	6.1	6.9
12年 (1937)	30.9	17.1	13.8	57年 (1982)	12.8	6.0	6.8
13年 (1938)	27.2	17.7	9.4	58年 (1983)	12.7	6.2	6.5
14年 (1939)	26.6	17.8	8.9	59年 (1984)	12.5	6.2	6.3
15年 (1940)	29.4	16.5	12.9	60年 (1985)	11.9	6.3	5.6
16年 (1941)	31.8	16.0	15.7	61年 (1986)	11.4	6.2	5.2
17年 (1942)	30.9	16.1	14.7	62年 (1987)	11.1	6.2	4.9
18年 (1943)	30.9	16.7	14.3	63年 (1988)	10.8	6.5	4.3
19年 (1944)	平成 元年 (1989)	10.2	6.4	3.7
20年 (1945)	2年 (1990)	10.0	6.7	3.3
21年 (1946)	3年 (1991)	9.9	6.7	3.2
22年 (1947)	34.3	14.6	19.7	4年 (1992)	9.8	6.9	2.9
23年 (1948)	33.5	11.9	21.6	5年 (1993)	9.6	7.1	2.5
24年 (1949)	33.0	11.6	21.4	6年 (1994)	10.0	7.1	2.9
25年 (1950)	28.1	10.9	17.2	7年 (1995)	9.6	7.4	2.1
26年 (1951)	25.3	9.9	15.4	8年 (1996)	9.7	7.2	2.5
27年 (1952)	23.4	8.9	14.4	9年 (1997)	9.5	7.3	2.2
28年 (1953)	21.5	8.9	12.6	10年 (1998)	9.6	7.5	2.1
29年 (1954)	20.0	8.2	11.9	11年 (1999)	9.4	7.8	1.6
30年 (1955)	19.4	7.8	11.6	12年 (2000)	9.5	7.7	1.8
31年 (1956)	18.4	8.0	10.4	13年 (2001)	9.3	7.7	1.6
32年 (1957)	17.2	8.3	8.9	14年 (2002)	9.2	7.8	1.4
33年 (1958)	18.0	7.4	10.5	15年 (2003)	8.9	8.0	0.9
34年 (1959)	17.5	7.4	10.1	16年 (2004)	8.8	8.2	0.7
35年 (1960)	17.2	7.6	9.6	17年 (2005)	8.4	8.6	-0.2
36年 (1961)	16.9	7.4	9.5	18年 (2006)	8.7	8.6	0.1
37年 (1962)	17.0	7.5	9.5	19年 (2007)	8.6	8.8	-0.1
38年 (1963)	17.3	7.0	10.3	20年 (2008)	8.7	9.1	-0.4
39年 (1964)	17.7	6.9	10.7	21年 (2009)	8.5	9.1	-0.6
				22年 (2010)	8.5	9.5	-1.0

資料：厚生労働省「人口動態統計」による。

(注) 昭和19年～21年は資料不備のため省略した。昭和22年～47年は沖縄県を含まない。

大正9年～昭和41年においては総人口（日本に在住する外国人を含む。）を分母に用いている。

1-2 世界の中の我が国の人口

我が国の人口は世界人口の1.9%

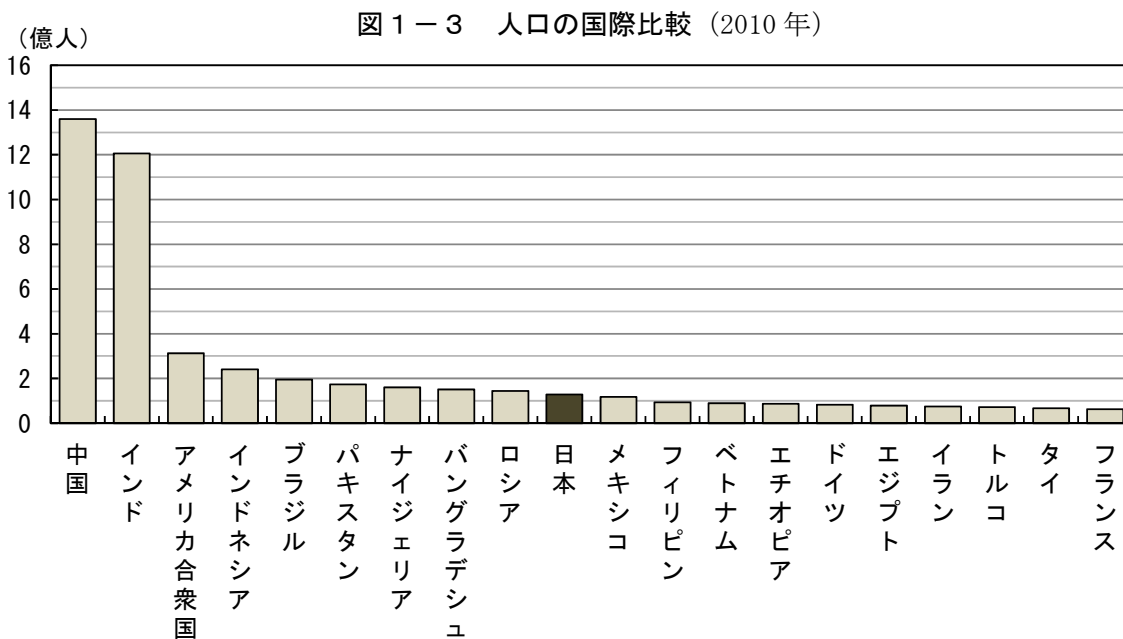
国際連合の推計によると、平成22年（2010年）の世界の人口（中位推計）は69億1600万人であり、我が国の総人口（1億2800万人）はその1.9%を占めている。同推計による各国の人口をみると、中国が13億6000万人と最も多く、次いでインド（12億600万人）となっており、10億人を超えるこの2か国で世界人口の約4割を占めている。これに次いで、アメリカ合衆国（3億1200万人）、インドネシア（2億4100万人）、ブラジル（1億9500万人）、パキスタン（1億7300万人）、ナイジェリア（1億6000万人）、バングラデシュ（1億5100万人）、ロシア（1億4400万人）の順となっており、我が国の人口はこれらの国に次いで10番目となっている。（図1-3、表1-3）

我が国の人口増減率は世界の中では低い

諸外国の2005年～2010年の年平均人口増減率をみると、ウガンダ、コンゴ民主共和国、ナイジェリア及びエチオピアのアフリカ諸国が2～3%と高い水準となっている。このほか、パキスタン、オーストラリア、フィリピンなどが1%以上の水準となっている。一方、ヨーロッパ諸国は1%未満となっており、ポーランド、ロシア、ドイツ及びウクライナでは増減率がマイナスとなっている。

我が国の年平均人口増減率（0.05%）は、世界の中では低い水準となっている。

（表1-4）



資料：United Nations, *World Population Prospects*, 2012年版の中位推計による。
日本は、国勢調査による。

表 1-3 人口の国際比較 (2000年~2010年)

順位	2000年			2005年			2010年		
	国名	人口 (千人)	世界人口 に占める 割合 (%)	国名	人口 (千人)	世界人口 に占める 割合 (%)	国名	人口 (千人)	世界人口 に占める 割合 (%)
	世界	6,127,700	100.0	世界	6,514,095	100.0	世界	6,916,183	100.0
1	中国	1,280,429	20.9	中国	1,318,177	20.2	中国	1,359,821	19.7
2	インド	1,042,262	17.0	インド	1,127,144	17.3	インド	1,205,625	17.4
3	アメリカ合衆国	284,594	4.6	アメリカ合衆国	298,166	4.6	アメリカ合衆国	312,247	4.5
4	インドネシア	208,939	3.4	インドネシア	224,481	3.4	インドネシア	240,676	3.5
5	ブラジル	174,505	2.8	ブラジル	186,142	2.9	ブラジル	195,210	2.8
6	ロシア	146,763	2.4	パキスタン	157,971	2.4	パキスタン	173,149	2.5
7	パキスタン	143,832	2.3	ロシア	143,933	2.2	ナイジェリア	159,708	2.3
8	バングラデシュ	132,383	2.2	バングラデシュ	143,135	2.2	バングラデシュ	151,125	2.2
9	日本	126,926	2.1	ナイジェリア	139,586	2.1	ロシア	143,618	2.1
10	ナイジェリア	122,877	2.0	日本	127,768	2.0	日本	128,057	1.9
11	メキシコ	103,874	1.7	メキシコ	110,732	1.7	メキシコ	117,886	1.7
12	ドイツ	83,512	1.4	フィリピン	85,821	1.3	フィリピン	93,444	1.4
13	ベトナム	80,888	1.3	ベトナム	84,948	1.3	ベトナム	89,047	1.3
14	フィリピン	77,652	1.3	ドイツ	83,836	1.3	エチオピア	87,095	1.3
15	エジプト	66,137	1.1	エチオピア	76,167	1.2	ドイツ	83,017	1.2
16	エチオピア	66,024	1.1	エジプト	71,778	1.1	エジプト	78,076	1.1
17	イラン	65,911	1.1	イラン	70,152	1.1	イラン	74,462	1.1
18	トルコ	63,174	1.0	トルコ	67,743	1.0	トルコ	72,138	1.0
19	タイ	62,343	1.0	タイ	65,559	1.0	タイ	66,402	1.0
20	フランス	59,213	1.0	フランス	61,445	0.9	フランス	63,231	0.9

資料：United Nations, *World Population Prospects*, 2012年版の中位推計による。
日本は、国勢調査による。

表 1-4 年平均人口増減率の国際比較 (2005年~2010年)

国名	年平均人口増減率 (%)	国名	年平均人口増減率 (%)
ウガンダ	3.42	バングラデシュ	1.09
コンゴ民主共和国	2.85	ブラジル	0.96
ナイジェリア	2.73	ベトナム	0.95
エチオピア	2.72	アメリカ合衆国	0.93
パキスタン	1.85	アルゼンチン	0.88
オーストラリア	1.77	中国	0.62
フィリピン	1.72	イタリア	0.62
エジプト	1.70	韓国	0.60
インドネシア	1.40	イギリス	0.58
インド	1.36	フランス	0.57
南アフリカ	1.30	日本	0.05
トルコ	1.26	ポーランド	0.00
メキシコ	1.26	ロシア	-0.04
カナダ	1.14	ドイツ	-0.20
ニュージーランド	1.11	ウクライナ	-0.46

資料：United Nations, *World Population Prospects*, 2012年版の中位推計による。
日本は、国勢調査による。

欧米諸国に比べ、アジア、ラテンアメリカ及びアフリカにおいて高い傾向にある出生率

諸外国の出生率をみると、アジア、ラテンアメリカ及びアフリカでは人口千人当たりおおむね15を超える傾向となっており、特にエチオピア、エジプト、パキスタン、インド及びベネズエラでは20を超えている。一方、欧米諸国やアジアの中でも我が国や韓国、中国では15未満となっており、我が国は8.5とドイツ（8.3）とほぼ同水準となっている。

また、諸外国の死亡率をみると、我が国を除くアジア、ラテンアメリカでは人口千人当たりおおむね8未満、我が国や欧米諸国ではおおむね8以上となっており、我が国の死亡率（9.5）はスウェーデン（9.6）とほぼ同水準となっている。

このように、アジア及びラテンアメリカでは、欧米諸国に比べ出生率は高く、死亡率が低い傾向になっていることから、自然増減率も欧米諸国に比べ高い傾向となっている。

（表1－5）

表1－5 出生率、死亡率及び自然増減率の国際比較

国名	(年次)	出生率 (人口千人当たり)	死亡率 (人口千人当たり)	自然増減率 (人口千人当たり)
アジア				
インド	(2008)	22.8	7.4	...
韓国	(2009)	9.0	5.0	4.0
中国	(2009)	12.1	7.1	5.0
日本	(2010)	8.5	9.5	-1.0
パキスタン	(2007)	24.0	6.4	17.6
フィリピン	(2005)	19.8	5.0	14.8
北アメリカ				
アメリカ合衆国	(2008)	14.0	8.1	5.8
カナダ	(2008)	11.3	7.2	4.1
ラテンアメリカ				
アルゼンチン	(2009)	18.6	7.6	11.0
ベネズエラ	(2008)	20.8	4.4	16.4
ヨーロッパ				
イギリス	(2010)	12.5	9.0	3.5
イタリア	(2010)	9.3	9.7	-0.4
ウクライナ	(2010)	10.8	15.2	-4.4
スウェーデン	(2010)	12.3	9.6	2.7
ドイツ	(2010)	8.3	10.5	-2.2
ハンガリー	(2010)	9.0	13.0	-4.0
フランス	(2010)	12.7	8.5	4.2
ロシア	(2010)	12.5	14.2	-1.7
アフリカ				
エジプト	(2009)	28.8	6.2	22.6
エチオピア	(2007)	30.1	11.4	18.7
オセアニア				
オーストラリア	(2009)	13.5	6.4	7.1

資料：United Nations, *Demographic Yearbook*, 2009-2010年版による。

日本は、厚生労働省「人口動態統計」による。

我が国の人口密度は343人/km²、世界の人口密度の6.7倍

2010年の我が国の人口密度は343人/km²で、国際連合の推計による世界の人口密度（51人/km²）の6.7倍となっている。同推計による各国の人口密度をみると、人口1千万以上の国の中では、バングラデシュが1,049人/km²と最も高く、次いで韓国（487人/km²）、ルワンダ（411人/km²）、オランダ（400人/km²）、インド（367人/km²）、ベルギー（358人/km²）の順となっており、我が国の人口密度はこれらの国に次いで7番目となっている。一方、人口1千万以上の国の中で人口密度が最も低いのはオーストラリア（3人/km²）となっている。

人口がどの程度集まっているかを測る指標である「接近度」ⁱⁱⁱをみると、2010年における世界の人口の接近度は151m、我が国は58mとなっている。また、人口1千万以上の国の中で人口密度が最も高いバングラデシュの人口の接近度は33m、同じく人口密度が最も低いオーストラリアは632mとなっている。（表1-6）

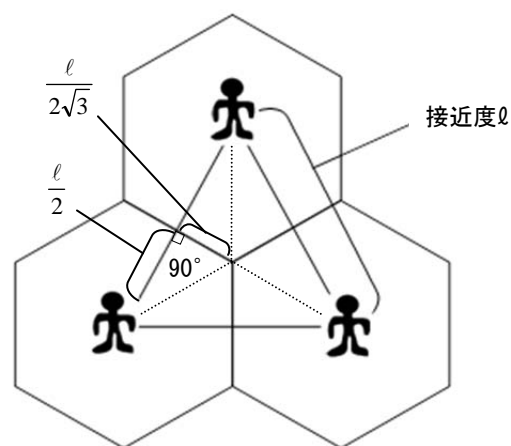
表1-6 人口密度及び接近度の国際比較（2010年）

国名	人口密度 (人/km ²)	接近度 (m)
世界	51	151
バングラデシュ	1,049	33
韓国	487	49
ルワンダ	411	53
オランダ	400	54
インド	367	56
ベルギー	358	57
日本 ¹⁾	343	58
スリランカ	316	60
フィリピン	311	61
ベトナム	268	66
イギリス	256	67
ドイツ	233	70
：	：	：
イタリア	201	76
：	：	：
中国	142	90
：	：	：
フランス	115	100
：	：	：
アメリカ合衆国	32	189
：	：	：
ブラジル	23	224
：	：	：
カナダ	3	581
オーストラリア	3	632

資料：United Nations, *World Population Prospects*, 2012年版による。日本は、平成22年国勢調査による。

(注) 人口1千万以上の国について算出。

1) 歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島及び竹島の面積を除いて算出。



ここでは、上図のとおり地域内の人々が正六角形の格子の中心に分布したと仮定して、各個人間の距離を次の式により計算した。

ℓ=接近度(メートル)
n=人口密度(人/平方キロメートル)

$$\begin{aligned} \text{正六角形の面積} &= \frac{\ell}{2} \times \frac{\ell}{2\sqrt{3}} \times \frac{1}{2} \times 12 \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} \ell^2 \end{aligned}$$

$$1 \text{ 平方キロメートル (1,000}^2\text{)} = n \times \frac{\sqrt{3}}{2} \ell^2$$

$$\ell = \sqrt{\frac{2}{\sqrt{3}}} \times 1,000 \times \frac{1}{\sqrt{n}}$$

ⁱⁱⁱ 接近度とは、人口が対象地域内において均等に分布するという仮定の下で、各個人間の距離が全て等しくなるように分布した場合の隣の人との距離である。

1-3 世界の人口の推移

2010年世界の人口は約69億人

国際連合の推計によると、西暦0年に約3億人であった人口は、1000年間で約1千万人の増加にとどまったが、その後人口の増加が始まり、1500年に約5億人となり、19世紀前半に10億人を上回った。その後、1930年に20億人、1960年に30億人、1975年に40億人と、次第に増加のテンポを速め、2000年には60億人を上回り、2010年には69億1千6百万人となっている。なお、国連人口基金 (UNFPA) が2011年10月に発表した「世界人口白書2011」によると、世界の人口は2011年10月31日に70億人に達したと推計されている。

世界の人口の推移を、年平均人口増減率でみると、1800年代以降には0.4~0.5%増であったが、20世紀に入ると増減率が上昇し、1960年~1970年には2.0%増を記録した。その後増減率は次第に低下して、2000年~2010年には1.2%増となっている。(表1-7)

表1-7 世界の人口及び年平均人口増減率の推移 (0年~2010年)

年次	人口 (百万人)	年平均人口増減率 (%)
0年	300	-
1000	310	0.0
1250	400	0.1
1500	500	0.1
1750	790	0.2
1800	980	0.4
1850	1,260	0.5
1900	1,650	0.5
1950	2,526	0.9
1960	3,026	1.8
1970	3,691	2.0
1980	4,449	1.9
1990	5,321	1.8
2000	6,128	1.4
2010	6,916	1.2

資料：1950年以降はUnited Nations, *World Population Prospects*, 2012年版の中位推計，それ以前はUnited Nations, *The World at Six Billion*による。

年平均人口増減率が2%を超える西アジア及びアフリカ

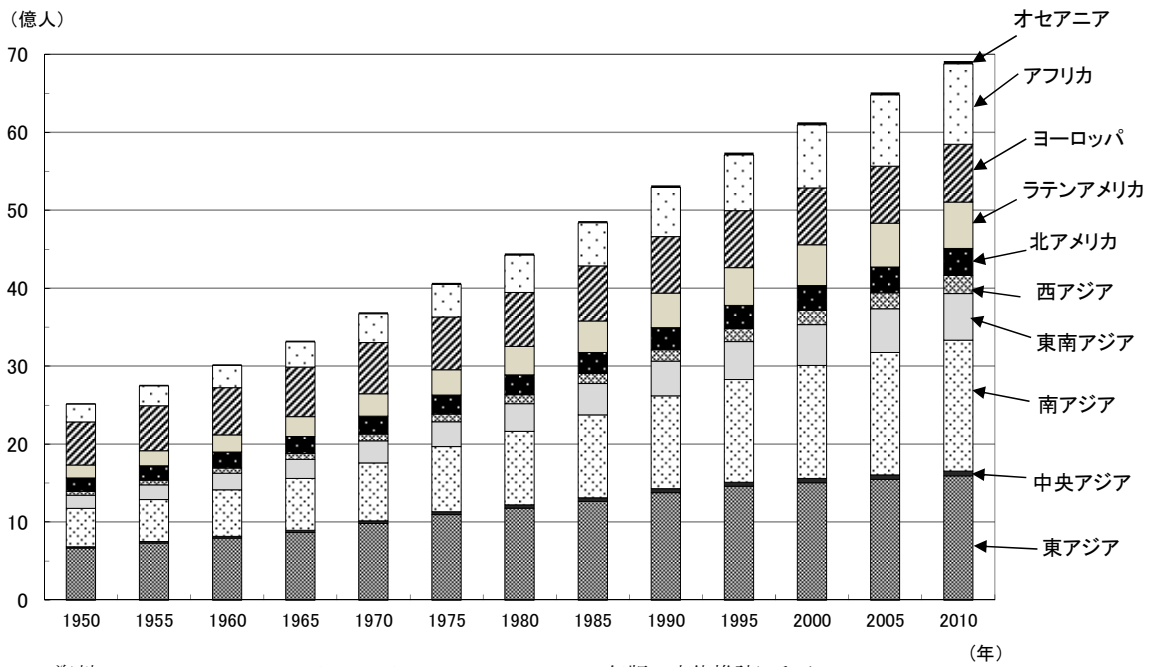
世界の人口の推移を地域別^{iv}にみると、1950年~1955年は、中央アジア、東南アジア、西アジア、ラテンアメリカ、アフリカ及びオセアニアの6地域で、年平均人口増減率が2%を超えていた。その後、ラテンアメリカやオセアニアの年平均人口増減率は横ばいから低下傾向になる一方、アジアやアフリカでは上昇傾向が続いた。しかし、1980年代以降、これらの国でも年平均人口増減率は低下傾向となり、2005年~2010年の年平均人口増減率が2%台となっているのは、西アジア及びアフリカの2地域となっている。

(図1-4, 表1-8, 表1-9)

^{iv} ここでいう「地域」とは、以下の国を指す。

- 東アジア : 日本, 中国, 韓国など
- 中央アジア : ウズベキスタン, カザフスタンなど
- 南アジア : インド, パキスタン, バングラデシュなど
- 東南アジア : インドネシア, タイ, フィリピン, ベトナム, マレーシアなど
- 西アジア : イラク, カタール, サウジアラビア, トルコなど
- 北アメリカ : アメリカ合衆国, カナダなど
- ラテンアメリカ : アルゼンチン, ブラジル, メキシコなど
- ヨーロッパ : イギリス, ドイツ, フランス, ロシアなど
- アフリカ : エジプト, エチオピア, ナイジェリア, 南アフリカ共和国など
- オセアニア : オーストラリア, ニュージーランドなど

図1-4 世界の地域別人口の推移 (1950年～2010年)



資料: United Nations, *World Population Prospects*, 2012年版の中間推計による。

表1-8 世界の地域別人口の推移 (1950年～2010年)

年次	世界	アジア						北アメリカ	ラテンアメリカ	ヨーロッパ	アフリカ	オセアニア
		東アジア	中央アジア	南アジア	東南アジア	西アジア						
1950年	2,526	1,396	666	17	493	168	51	172	168	549	229	13
1955	2,762	1,538	733	20	538	188	58	187	192	577	254	14
1960	3,026	1,695	794	24	595	215	66	204	220	606	285	16
1965	3,329	1,881	867	29	664	246	75	219	253	635	323	17
1970	3,691	2,129	984	33	745	281	86	231	288	657	366	20
1975	4,071	2,387	1,098	37	835	319	99	243	325	678	417	21
1980	4,449	2,634	1,180	41	944	357	114	255	364	695	478	23
1985	4,864	2,908	1,268	45	1,063	400	131	268	404	709	550	25
1990	5,321	3,213	1,379	50	1,192	444	148	282	445	723	630	27
1995	5,742	3,483	1,458	53	1,320	485	166	297	486	730	717	29
2000	6,128	3,717	1,507	55	1,448	524	184	315	526	729	808	31
2005	6,514	3,943	1,549	58	1,569	562	205	331	563	733	912	34
2010	6,916	4,165	1,594	62	1,681	597	232	347	596	740	1,031	37

資料: United Nations, *World Population Prospects*, 2012年版の中間推計による。

表1-9 世界の地域別年平均人口増減率の推移 (1950年～2010年)

年次	世界	アジア						北アメリカ	ラテンアメリカ	ヨーロッパ	アフリカ	オセアニア
		東アジア	中央アジア	南アジア	東南アジア	西アジア						
1950～1955年	1.8	2.0	1.9	2.7	1.8	2.3	2.6	1.7	2.8	1.0	2.1	2.3
1955～1960	1.8	2.0	1.6	3.8	2.0	2.7	2.6	1.8	2.8	1.0	2.4	2.2
1960～1965	1.9	2.1	1.8	3.6	2.2	2.8	2.7	1.4	2.8	1.0	2.5	2.1
1965～1970	2.1	2.5	2.6	2.7	2.3	2.7	2.6	1.1	2.6	0.7	2.6	2.4
1970～1975	2.0	2.3	2.2	2.4	2.3	2.5	2.8	1.0	2.5	0.6	2.6	1.8
1975～1980	1.8	2.0	1.5	2.1	2.5	2.3	2.8	1.0	2.3	0.5	2.8	1.3
1980～1985	1.8	2.0	1.5	2.1	2.4	2.3	2.9	1.0	2.1	0.4	2.8	1.6
1985～1990	1.8	2.0	1.7	2.0	2.3	2.1	2.5	1.1	1.9	0.4	2.8	1.6
1990～1995	1.5	1.6	1.1	1.2	2.1	1.8	2.3	1.1	1.8	0.2	2.6	1.5
1995～2000	1.3	1.3	0.7	0.7	1.9	1.6	2.0	1.2	1.6	-0.0	2.4	1.5
2000～2005	1.2	1.2	0.6	0.9	1.6	1.4	2.3	0.9	1.3	0.1	2.4	1.5
2005～2010	1.2	1.1	0.6	1.3	1.4	1.2	2.5	0.9	1.2	0.2	2.5	1.7
1950～2010	1.7	1.8	1.5	2.1	2.1	2.1	2.5	1.2	2.1	0.5	2.5	1.8

資料: United Nations, *World Population Prospects*, 2012年版の中間推計による。

1-4 将来推計人口

我が国の総人口は2060年には8700万人になると推計

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」によると、我が国の総人口は長期の人口減少過程に入ると推計されている。出生中位・死亡中位^v推計（以下中位推計という。）の結果に基づけば、2020年の1億2400万人を経て、2040年には1億700万人となり、2060年には8700万人と2010年の約3分の2程度になると推計されている。（表1-10）

2060年の世界の人口は約96億人

国際連合の推計によると、2010年に約69億人であった世界の人口は、2020年には約77億人、2040年には約90億人、2060年には約100億人になると推計されている。人口増減率でみると、2010年～2020年にかけて10%を超えるものの、2020年以降の増減率は低下していくと推計されている。（図1-5、表1-11）

2060年までに、ヨーロッパ及び東アジアの人口は減少、その他の地域では増加

諸外国の将来推計人口を地域別にみると、人口が減少する国はヨーロッパ地域及び我が国を含む東アジアに多く、それ以外の地域のほとんどの国では人口が増加すると推計されている。

特に、アフリカは2060年までの50年間に171.3%増と高い伸びになっている。次いでオセアニアが66.2%増、北アメリカが34.2%増、ラテンアメリカが32.7%増、アジアが23.7%増となっている。一方、ヨーロッパは6.7%減少すると推計されている。

このうち、アジアについて5つの地域別にみると、西アジア、南アジア、中央アジア、東南アジアでは人口が増加し続ける一方、我が国を含む東アジアにおいては、4.4%減少すると推計されている。（図1-5、表1-11）

表1-10 日本の将来推計人口
(2010年～2060年)

年次	人口（千人）		
	出生中位	出生高位	出生低位
2010年	128,057	128,057	128,057
2015	126,597	126,947	126,188
2020	124,100	125,196	122,996
2025	120,659	122,559	118,855
2030	116,618	119,243	114,166
2035	112,124	115,427	109,051
2040	107,276	111,300	103,557
2045	102,210	107,078	97,777
2050	97,076	102,915	91,866
2055	91,933	98,797	85,933
2060	86,737	94,600	79,972

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」による。
(注) 死亡推移は、中位推計による。

^v 国立社会保障・人口問題研究所では、将来の出生推移・死亡推移についてそれぞれ中位、高位、低位の3仮定を設け、それらの組合せにより9通りの推計を行っている。推計方法や出生率・生残率の仮定など詳細については、「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/gh2401.asp>）を参照されたい。

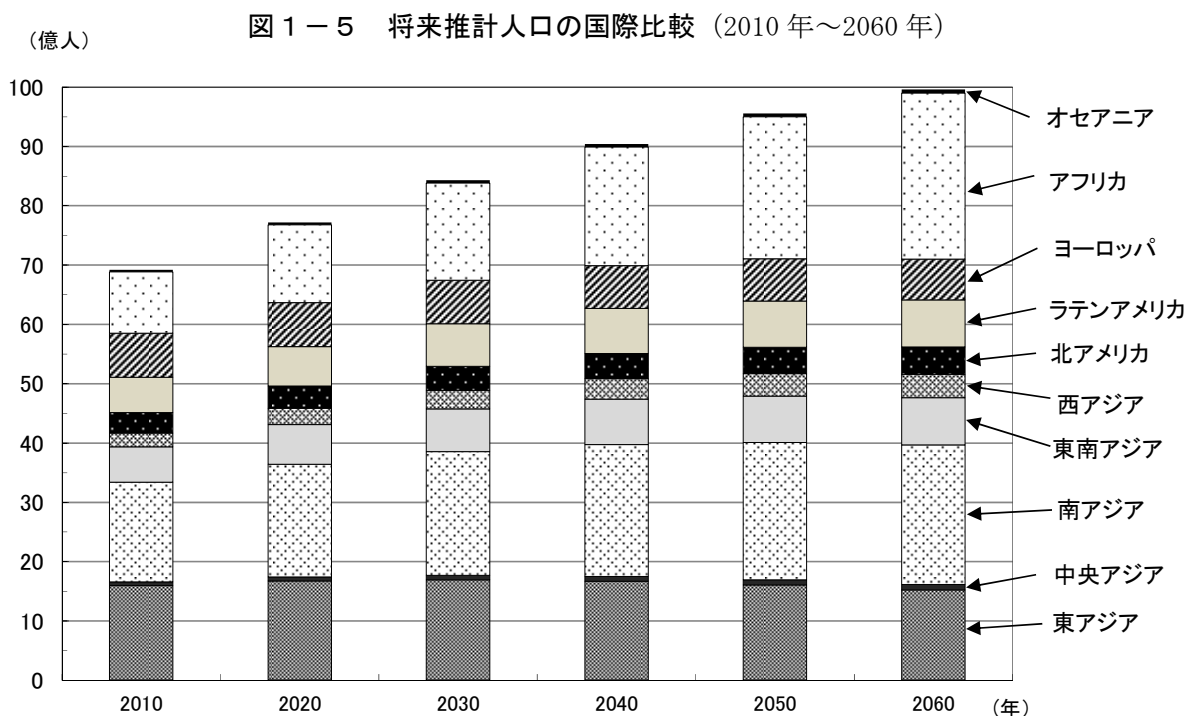
ヨーロッパでは人口が減少する国もあれば増加する国もある

ヨーロッパ諸国の将来推計人口をみると、例えばウクライナでは、2010年の人口は4600万人であるが、2060年には33.0%減の3100万人になると推計されている。同じく、ロシアでは1億4400万人から1億1500万人と19.9%減、ドイツでは8300万人から6800万人と17.6%減、ポーランドでは3800万人から3200万人と15.4%減と、人口が減少すると推計されている。一方、イギリスでは6200万人から7500万人と20.3%増、フランスでは6300万人から7500万人と18.0%増と、人口が増加すると推計されている国もある。(表1-11)

アジアの人口増加の主要因はインドの増加

ヨーロッパ以外の国の状況をみると、例えばウガンダでは2010年の人口は3400万人であるが、2060年には272.3%増の1億2700万人になると推計されている。同じく、インドでは12億600万人から16億4400万人と36.3%増、アメリカ合衆国では3億1200万人から4億1800万人と33.8%増、ブラジルでは1億9500万人から2億2800万人と17.0%増と推計されている。

このうち、インドについてみると、2010年から2060年までの間に4億3800万人増と推計されている。アジア全体の人口は、2010年の41億6500万人から51億5200万人と、9億8700万人増と推計されていることから、アジアの人口増加の主要因はインドの増加であることが分かる。(表1-11)



資料：United Nations, *World Population Prospects*, 2012年版の中位推計による。
 日本は、2010年は国勢調査、2020年～2060年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」の中位推計による。

表1-11 将来推計人口の国際比較 (2010年~2060年)

国名	人口 (千人)						人口増減率 (%)					2010年~2060年の人口増減率 (%)
	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年	2010年~2020年	2020年~2030年	2030年~2040年	2040年~2050年	2050年~2060年	
世界	6,916,183	7,716,749	8,424,937	9,038,687	9,550,945	9,957,399	11.6	9.2	7.3	5.7	4.3	44.0
アジア	4,165,440	4,581,523	4,886,846	5,080,419	5,164,061	5,152,203	10.0	6.7	4.0	1.6	-0.2	23.7
東アジア	1,593,571	1,669,647	1,688,309	1,664,480	1,605,341	1,523,818	4.8	1.1	-1.4	-3.6	-5.1	-4.4
韓国	48,454	50,769	52,190	52,270	51,034	48,959	4.8	2.8	0.2	-2.4	-4.1	1.0
中国	1,359,821	1,432,868	1,453,297	1,435,499	1,384,977	1,313,300	5.4	1.4	-1.2	-3.5	-5.2	-3.4
日本	128,057	124,100	116,618	107,276	97,076	86,737	-3.1	-6.0	-8.0	-9.5	-10.7	-32.3
中央アジア	61,694	70,464	77,158	82,209	86,154	88,010	14.2	9.5	6.5	4.8	2.2	42.7
ウズベキスタン	27,769	31,495	34,147	35,687	36,330	35,946	13.4	8.4	4.5	1.8	-1.1	29.4
南アジア	1,681,407	1,899,587	2,085,479	2,223,980	2,312,026	2,352,108	13.0	9.8	6.6	4.0	1.7	39.9
インド	1,205,625	1,353,305	1,476,378	1,565,509	1,620,051	1,643,519	12.2	9.1	6.0	3.5	1.4	36.3
パキスタン	173,149	203,351	231,744	254,769	271,082	280,107	17.4	14.0	9.9	6.4	3.3	61.8
バングラデシュ	151,125	169,566	185,064	195,861	201,948	203,701	12.2	9.1	5.8	3.1	0.9	34.8
東南アジア	597,097	666,110	722,790	763,854	787,535	796,572	11.6	8.5	5.7	3.1	1.1	33.4
インドネシア	240,676	269,413	293,482	311,334	321,377	325,634	11.9	8.9	6.1	3.2	1.3	35.3
フィリピン	93,444	110,404	127,797	143,516	157,118	168,305	18.1	15.8	12.3	9.5	7.1	80.1
ベトナム	89,047	97,057	101,830	104,155	103,697	100,564	9.0	4.9	2.3	-0.4	-3.0	12.9
西アジア	231,671	275,714	313,110	345,897	373,006	391,696	19.0	13.6	10.5	7.8	5.0	69.1
トルコ	72,138	80,309	86,825	91,778	94,606	95,331	11.3	8.1	5.7	3.1	0.8	32.2
北アメリカ	346,501	375,724	403,373	426,332	446,201	464,996	8.4	7.4	5.7	4.7	4.2	34.2
アメリカ合衆国	312,247	337,983	362,629	383,165	400,853	417,764	8.2	7.3	5.7	4.6	4.2	33.8
カナダ	34,126	37,612	40,617	43,042	45,228	47,114	10.2	8.0	6.0	5.1	4.2	38.1
ラテンアメリカ	596,191	661,724	716,671	756,997	781,566	791,300	11.0	8.3	5.6	3.2	1.2	32.7
アルゼンチン	40,374	43,835	46,859	49,275	51,024	51,997	8.6	6.9	5.2	3.5	1.9	28.8
ブラジル	195,210	211,102	222,748	229,403	231,120	228,378	8.1	5.5	3.0	0.7	-1.2	17.0
メキシコ	117,886	131,955	143,663	151,821	156,102	156,857	11.9	8.9	5.7	2.8	0.5	33.1
ヨーロッパ	740,308	743,569	736,364	723,887	709,067	690,622	0.4	-1.0	-1.7	-2.0	-2.6	-6.7
イギリス	62,066	65,600	68,631	71,001	73,131	74,695	5.7	4.6	3.5	3.0	2.1	20.3
イタリア	60,509	61,386	61,212	60,812	60,015	58,499	1.4	-0.3	-0.7	-1.3	-2.5	-3.3
ウクライナ	46,050	43,164	39,842	36,554	33,658	30,859	-6.3	-7.7	-8.3	-7.9	-8.3	-33.0
ドイツ	83,017	81,881	79,552	76,354	72,566	68,416	-1.4	-2.8	-4.0	-5.0	-5.7	-17.6
フランス	63,231	66,570	69,286	71,523	73,212	74,635	5.3	4.1	3.2	2.4	1.9	18.0
ポーランド	38,199	38,158	37,448	35,840	34,079	32,305	-0.1	-1.9	-4.3	-4.9	-5.2	-15.4
ロシア	143,618	140,011	133,556	127,005	120,896	115,023	-2.5	-4.6	-4.9	-4.8	-4.9	-19.9
アフリカ	1,031,084	1,312,142	1,634,366	1,998,821	2,393,175	2,797,337	27.3	24.6	22.3	19.7	16.9	171.3
ウガンダ	33,987	47,088	63,388	82,659	104,078	126,551	38.5	34.6	30.4	25.9	21.6	272.3
エジプト	78,076	91,062	102,553	113,001	121,798	128,296	16.6	12.6	10.2	7.8	5.3	64.3
エチオピア	87,095	111,521	137,670	163,553	187,573	208,352	28.0	23.4	18.8	14.7	11.1	139.2
コンゴ民主共和国	62,191	81,252	103,743	128,755	155,291	181,853	30.6	27.7	24.1	20.6	17.1	192.4
ナイジェリア	159,708	210,159	273,120	350,720	440,355	537,735	31.6	30.0	28.4	25.6	22.1	236.7
南アフリカ共和国	51,452	55,131	58,096	60,938	63,405	65,077	7.2	5.4	4.9	4.0	2.6	26.5
オセアニア	36,659	42,066	47,317	52,232	56,874	60,940	14.7	12.5	10.4	8.9	7.1	66.2
オーストラリア	22,404	25,440	28,336	31,045	33,735	36,124	13.5	11.4	9.6	8.7	7.1	61.2
ニュージーランド	4,368	4,814	5,208	5,521	5,778	5,969	10.2	8.2	6.0	4.7	3.3	36.6

資料: United Nations, *World Population Prospects*, 2012年版の中位推計による。

日本は、2010年は国勢調査、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」の中位推計による。

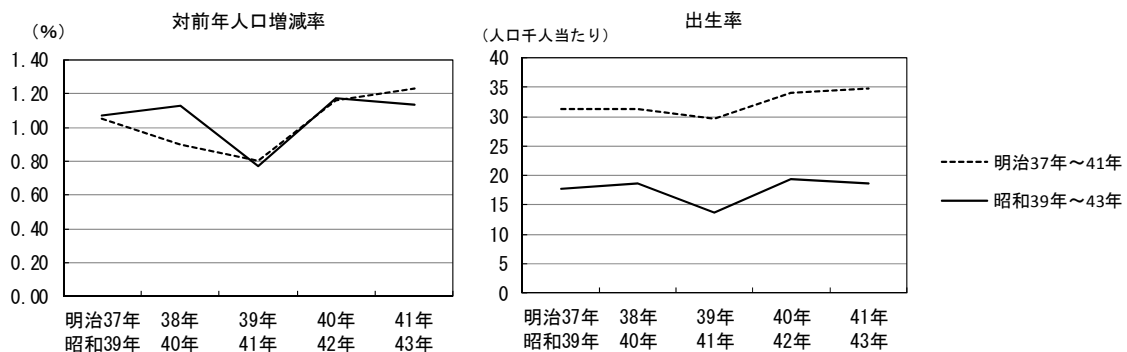
トピックス ～「丙午」における人口動態について～

「丙午（ひのえうま）」とは、干支の一つで、60年ごとに巡るものであり、丙午の年に生まれた女性は気性が激しいという迷信がある。

表1-Aにあるとおり、直近の丙午である昭和41年（1966年）においては、対前年人口増減率は0.77%、出生率は人口千人当たり13.7となっており、人口増減率はその前後の年と比べて0.36～0.40ポイント、出生率は4.9～5.7ポイント低くなっている。

一方、昭和41年の前の丙午（明治39年）においては、対前年人口増減率は0.80%、出生率は人口千人当たり29.6となっており、人口増減率はその前後の年と比べて0.10～0.36ポイント、出生率は1.6～4.4ポイント低くなっている。

図1-A 人口増減率及び出生率の推移—全国（明治37年～41年，昭和39年～43年）



資料：対前年人口増減率は内閣統計局の推計（明治37年～41年）、国勢調査（昭和40年）及び人口推計（昭和39年、41年～43年）、出生率は人口動態統計（厚生労働省）による。

表1-A 人口、人口増減率及び出生率の推移—全国（明治37年～41年，昭和39年～43年）

年次	人口 (千人)	対前年人口増減率 (%)	出生率 (人口千人当たり)	年次	人口 (千人)	対前年人口増減率 (%)	出生率 (人口千人当たり)
明治37年 (1904年)	46,135	1.05	31.2	昭和39年 (1964年)	97,182	1.07	17.7
38年 (1905年)	46,620	0.90	31.2	40年 (1965年)	98,275	1.13	18.6
39年 (1906年)	47,038	0.80	29.6	41年 (1966年)	99,036	0.77	13.7
40年 (1907年)	47,416	1.16	34.0	42年 (1967年)	100,196	1.17	19.4
41年 (1908年)	47,965	1.23	34.7	43年 (1968年)	101,331	1.13	18.6

資料：人口及び対前年人口増減率は内閣統計局の推計（明治37年～41年）、国勢調査（昭和40年）及び人口推計（昭和39年、41年～43年）、出生率は人口動態統計（厚生労働省）による。

以上のことから、対前年人口増減率、出生率共、昭和41年の丙午は、明治39年の丙午に比べて前後の年との差が大きくなっており、人口への影響が大きいことが分かる。

このように、人口に関する数値は様々な背景事情により影響を受け、更には男女・年齢別人口についても影響を受けることがあるため、男女・年齢別人口などを分析する際は、このような出生及び死亡並びに社会情勢に関する考察が必要となる。